

第15回 日本在宅医学会大会 プログラム別 詳細情報

カテゴリー	シンポジウム(公募演題)
タイトル	高齢化及び過疎化の進む中山間地における在宅療養支援病院の役割について
日時	平成 25 年 3 月 31 日 9:00~12:00
会場	第 6 会議室
所属先	1) 新潟県立津川病院、2) 阿賀町診療所、3) 新潟大学総合地域医療学講座、4) 新潟大学医科総合診療部、5) 新潟大学第二内科
共著者 (敬称略)	吉嶺文俊 1)、清野洋 1)、影向一美 1)、吉井雅美 1)、原勝人 1)、阿部昌洋 2)、井口清太郎 3)、鈴木栄一 4)、成田一衛 5)
企画趣旨	<p>私たちは以前、2007 年の第 9 回本学会において「寒冷・豪雪地帯の在宅医療-新潟県中山間地の豪雪地帯における出向く医療の経験を通じた地域医療のあり方の検討-」において、多職種連携やチーム医療の推進により訪問患者数の大幅な増加と平均在院日数の短縮化の傾向を報告した。その後在宅療養支援診療所（在支診）在支診、在宅療養支援病院（在支病）の制度が生まれものの、新潟県においては在支診の届出率は全国平均よりも低い、当院では 2010 年より要件が緩和された在支病そして 2012 年には強化型（単独）在支病として在宅医療に関わっている。</p> <p>診療報酬上の有利な条件はあるものの、人材不足への直接的な解決策にはならず、患者及び医療者の都市部大病院志向に歯止めをかけることは困難な現実があるものの、これからの在宅医療システムを支えるうえで有用な制度であると思われる。</p>